

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮崇	法人・ 事業所 の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ、その時の体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています
事業所名	小規模多機能型居宅 介護アネックス関原	管理者	池田愛美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報共有は連絡帳を活用する。定期的にミーティングを行い意見交換や情報共有を行う。気づきで終わらせず、カンファレンスで早めに話し合える場を作る。	出来る限り、ミーティングにて情報を共有することに努めていた。訪問時、家族と積極的にコミュニケーションを取るよう努めた。	スタッフが事業所自己評価に取り組んでいることが確認できた。カンファレンス等の記録も機会があれば拝見してみたい。	情報共有は、連絡帳を活用する。定期的にミーティングを行い意見交換や情報共有を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的な地域の茶の間の継続を行い、地域の方との交流を図る。	コロナウイルス感染予防のために地域との関わりを持つ事が最小限となった。その中でもできる限り地域の取り組みに参加する努力は行っていた。	地域に根付いた事業所として努力する姿が感じられる。コロナが落ち着いたらまた茶の間を再開して欲しい。事業所のしつらえや環境に問題はない。	定期的に地域の茶の間を行い、地域の方々との交流を図る。テラスの開放の継続。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事に積極的に参加する。地域の茶の間の継続を行う。テラスの開放を行い、地域の皆様との交流を図る。	避難訓練にも参加している。コロナウイルス感染予防のために地域の行事には参加できなかった。	地域に開放されて入りやすい雰囲気がある。小規模多機能のサービス事業所としての理解が不十分ではないか。今だからできる地域との関わり方の工夫が必要ではないか。	地域の行事に積極的に参加する。地域の茶の間の継続を行う。テラスの開放を行い、地域の皆様との交流を図る。小規模多機能の事業所の啓発活動の継続。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のイベントに積極的に参加する。地域の茶の間を活用して、心配事や情報収集を行う。	開放的な建物であり、自由に出入りができている。定期的に運営推進会議が行われている。	開放的であり、利用者を閉じ込めている印象はない。運営推進会議を通じて事業所の状況を把握できている。	運営推進会議を利用して地域の情報収集を行う。地域のイベントに参加する。地域の茶の間を利用して心配事や情報収集を行う。

E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の心配な方等の事例検討を行う。	事例検討は行っていない。運営推進会議を利用して地域の心配事や連携が必要なことを話し合っても良い。	定期的に開催されており、事業所の運営や様子がわかりやすい。	運営推進会議を利用して地域や事業所の心配な方等の情報収集や意見交換を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方に福祉避難所であることの啓発活動を継続していく。地域の方も交えた避難訓練を行う。	地域の避難訓練に参加できた。避難訓練を行い、防災マニュアルを確認できた。	事業所の防災計画は今後も検討していく方が良い。避難訓練に関しては運営推進会議の中で行う。	地域の方に福祉避難所であることの啓発活動を継続していく。地域の方も交えた避難訓練を行う。